

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
551	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The effect of alcohol on radiographic progression in rheumatoid arthritis. 慢性関節リウマチにおけるX線レントゲンから見た飲酒の効果について	
執筆者	
Nissen MJ, Gabay C, Scherer A, Finckh A; Swiss Clinical Quality Management Project in Rheumatoid Arthritis.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arthritis Rheum. 2010 May;62(5):1265-72.	
キーワード	
飲酒、慢性関節リウマチ、X線レントゲン	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 飲酒は関節リウマチ (RA) 発生と関節炎の発生を有意に抑えるということが動物モデルで分かった。飲酒がRAにおいて関節の障害に進行していくことと、飲酒の影響についてはまだ知られていない。この研究は、飲酒者と非飲酒者との間でX線写真の障害の割合を比較するために、RA患者の前向きコホートして企画した。	
<b>方法：</b> 少なくとも連続的な2方向のX線写真からRAと登録されたスイスの臨床で管理された集団ベースの患者が対象であった。関節の浸食は手足の38の関節をスコアリングして検証された。浸食の進行度合いは多変量回帰モデルにて解析された。そして潜在的な交絡要因因子も調整された。	
<b>結果：</b> 本研究では4つの連続的なX線写真と3.9年の追跡を行った2,908名の患者を含んでいた。 飲酒者のX線写真での進行度合いは非飲酒者と比較すると傾向があった。平均的な浸食の度合いは0.99% (95%信頼区間: 95%CI 0.89-1.09) で、1年後は1.13% (95%CI 1.01-1.26) であった。飲酒量との関連ではJ型の結果となった。機会飲酒者 (P=0.01) 日常的な飲酒者 (P=0.001) については非飲酒者よりも好ましい結果となった。大量の飲酒者についてはX線レントゲンの結果では悪化 (P=0.001) が見られた。性別によっても有意な結果が出た。女性の飲酒者については男性の非飲酒者 (0.86% 95%CI 0.7-1.03 : 1.35% 95%CI 1.02-1.67) と比較すると有意に進行が緩やかな結果となった (P=0.007)。	
<b>結論：</b> この研究では飲酒者と非飲酒者の間では、特に機会飲酒と日常的な飲酒者についてX線写真における浸食においてある傾向を見出した。特に男性のRA患者において飲酒者は非飲酒者と比較してX線レントゲンでは浸食が少ない事が分かった。	